

ビデオカンファレンスの進め方に関する一考察

A study on how to manage videoconference

高 村 真 希 (人間科学部こども学科助手)

Maki TAKAMURA (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Teaching Associate)

〈要旨〉

保育カンファレンスの場で多く用いられるようになってきたビデオカンファレンスであるが、その効果についてまとめた書籍は数多くあるものの、具体的な進め方「撮影時間（活動時間、撮影曜日）、編集時間、抽出場面、カンファレンス時間、カンファレンスのグループ編成や人数等」について詳細に記載された書籍は少ない。本稿では、筆者がA幼稚園において、園内研修の一環としてビデオカンファレンスに関わってきた事例を基にし、ビデオカンファレンスの進め方について模索するために幼稚園教諭へのヒアリング調査を行い考察した。本調査からは初めてビデオカンファレンスを行うA幼稚園におけるビデオカンファレンスの進め方としては、保育の全ての場면을撮影し、検討を行うのではなく、保育の一部分を選択し、2時間程度のカンファレンスを行うことが望ましいということが示された。また、撮影対象についても教諭の姿ではなく、子どもの遊んでいる姿を検討していきたいと考えていることが明らかとなった。

〈キーワード〉

保育現場、ビデオカンファレンス、保育研修

1 問題と目的

1-1 ビデオカンファレンスの意義

保育者が保育力を高めていくためには、毎日の出来事を記録し、それを基に自分の保育を振り返ること（省察）が大切であり、振り返りを通して子どもを見る目が育っていくとされている。保育所保育指針でも「保育所全体の保育の質の向上を図るため、職員一人一人が、保育実践や研修などを通じて保育の専門性などを高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協働性を高めていくこと」が求められている。⁽¹⁾

岸井（2013）は行動描写記録・エピソード記述・写真・音声記録などの多くの記録方法がある中でも、最も効果的な記録方法としてビデオカンファレンスをあげている。ビデオカンファレンスでは、エピソード記述や写真・文字だけでは再現できない保育の場面（子どもや保育者自身の言葉や行動）を振り返ることができるため、他の記録方法に比べ、得られる情報量が圧倒的に多いという利点がある。また、実際にその場で様子を見ていない担任以外の保育者もビデオ記録を通して、子どもや自分自身を振り返ることができ、担任の悩みや苦勞・喜びを共有することもビデオカンファレンスの特徴である。⁽²⁾ 工藤（2015）も

ビデオカンファレンスについて、幼稚園の果たすべき役割・教師の果たすべき役割の確認や教師の専門性の向上の必要性などが確認でき、複雑で多様で曖昧な保育実践への対応力を高めることにつながると述べている。工藤が幼稚園教諭に実施した調査からも「教職員間の共通理解のための協議の大切さが再認識できた」や「幼児の育ちの充実には、教師の専門性の向上は必須である」等のことが記されており、ビデオカンファレンスを行ったことでの保育者の意識の変容がうかがえる。⁽³⁾

黒沢ら（2016）が行った保育者へのアンケート調査結果からも90%の保育者が保育カンファレンスを行ったことは有意義なことであったと回答している。⁽⁴⁾

撮影場面について岸井（2013）は保育にはいろいろな出来事や条件があり、その状況の中で精いっぱい保育し、その時々保育を検討する目や姿勢を保育者が持つことが必要であると述べている。ビデオカンファレンスで視聴する場面については、子どもの遊びが盛り上がった場面だけではなく、その他の場面（いつもとは違った場面）を検討していくことも大切であるとも述べている。⁽⁵⁾ 確かに保育にはいろいろな出来事があり、それを含めての保育であるということは先行研究からも明らかにされている。しかし、

中坪ら(2012)がカンファレンスは参加メンバーの構成や人数、調査時の雰囲気等の要因により保育者の談話スタイルは変化する⁽⁶⁾ということを述べているように、カンファレンスの在り方はその園その園の状況によって変化を持たせることが必要であるようにも感じる。そこで、本研究はA幼稚園において保育の質向上のためにビデオカンファレンスを行うことでの意義や、A幼稚園でのビデオカンファレンスの在り方を検討することを目的とした。また、ビデオカンファレンスの進め方に関するヒアリング調査を行い、今後より適切な方法でカンファレンスを実施できるよう課題の抽出と改善策を提言することを目的とする。

1-2 ビデオカンファレンスに至った経緯

本研究の対象となるA幼稚園は、月に一度の職員会で子どもの様子を伝え合う保育カンファレンスを行ってきたが、子どもの姿や保育者の姿をビデオに撮影し、その姿から見てきたことについて保育カンファレンスを行うことは初めてである。また、A幼稚園は3歳児～5歳児クラスは一人担任であるため、保育中に保育室を離れ、他の保育室の様子をうかがうことは難しく、他のクラスの様子を実際に見て互いの思いをその場で話し合うということが難しいのが現状である。そのため、保育の振り返りや保育の質のさらなる向上を目的とすることはもちろんであるが、それぞれの保育室の様子(子どもの姿や保育の場面)をビデオに撮影することで、他のクラスの様子を知り、互いの思いを共有するよい機会になるのではないかと考え、今回初めてのビデオカンファレンスに取り組むことにした。

2 方法

2-1 対象

本研究は、園長1名、主任教諭1名、満3歳児～5歳児クラスの担当教諭8名、幼稚園内支援センター担当教諭1名の計11名を対象として行った。ファシリテーターを撮影者と園長で交代に行ったため、ヒアリング調査は園長以外の10名を対象として行った。ビデオ撮影は3歳児～5歳児クラスを対象とし、1学年2クラスの計6クラスの撮影を行った。満3歳児クラスは学期途中に入園をする子どもが多いため、情緒の安定を優先し、今回は撮影を行わないこととした。

2-2 実施期間

撮影は平成28年7月・10月に各クラス1回ずつ実施した。カンファレンスは撮影の翌月の職員会議の2時間とした。調査時期は、調査協力者の負担を考え、年間行事との重なりが少ない保育業務が比較的落ち着いている時期に行った。

2-3 カンファレンスの進め方

カンファレンスは全教諭に参加してもらうため、月1回土曜日に行う職員会議の2時間で行った。

I・1回目のカンファレンス

- 1) 3歳児クラス～5歳児クラスの子どもの活動中の様子を筆者がビデオに撮影した。園長と相談し、各クラス、比較的子どもの情緒が安定していると思われる水曜日または木曜日に撮影を行った。撮影時間も子どもの遊んでいる姿を撮影するために10:00～12:00の時間帯に撮影を行った。1学年2クラス編成のため、10:00～12:00の間に2クラスを行き来しながらの撮影であった。撮影場面は教諭から撮影依頼のあった場面と筆者が惹きつけられた場面を撮影した。
- 2) 撮影した場面の中からいくつかの場面を園長と共にピックアップした後、1学年10分の動画に編集し、幼稚園全教諭11名にて3、4、5歳それぞれの場面(1場面10分×3場面で30分程度)のビデオを視聴し、グループに分かれて15分のカンファレンスを行った。1グループの人数を3～4人とし、保育経験年数が近いということをも条件に分類した。
- 3) ビデオを視聴して感じたことや気付いたこと、疑問点等を1場面につき15分間、各グループでカンファレンスを行った。その後、カンファレンスの中で出てきた議論を全体場で代表者が発表した。代表者は各グループで選出を行った。

II・2回目のカンファレンス

2回目のカンファレンスでは、1回目に話し合いの時間が十分に持てなかったという双方の反省を基にし、カンファレンスの場面を3場面から2場面に変更した。また、話し合いの時間を15分から30分に延ばして行った。

- 1) 3歳児クラス～5歳児クラスの子どもの活動中の様子を筆者がビデオに撮影した。各クラス、水曜日または木曜日の10:00～12:00の時間帯に撮影を行った。1学年2クラスのため、10:00～12:00の間に2クラスを行き来しながらの撮影を行った。撮影場面は幼稚園教諭から撮影依頼のあった場面と筆者が惹きつけられた場面を撮影した。
- 2) 撮影した場面の中からいくつかの場面を園長と共にピックアップした後、1学年10分の動画に編集し、幼稚園全教諭11名にて2学年分(20分程度)をビデオ視聴し、カンファレンスを行った。1グループの人数を5～6人とし、各グループに3、4、5歳の担任をしている教諭が必ず含まれるようにした。保育経験年数は関係なく分類した。
- 3) ビデオを視聴して感じたことや気付いたこと、疑問点等を1場面につき30分間、各グループでカンファレンス

を行った。その後、カンファレンスの中で出てきた議論を全体場で代表者が発表した。代表者は各グループで選出を行った。

2-4 カンファレンスに関するヒアリング調査

2回（全5場面）のカンファレンスを終え、園長以外の全教諭10名にヒアリング調査を行った。また、調査は筆者と1対1で1人約15分～30分の時間を使用して行った。

（ヒアリング調査の内容）

- ① 撮影日を週の真ん中の水曜・木曜としたが、どうであったか。
- ② 撮影時間は10：00～12：00の2時間としたが、どうであったか。
- ③ カンファレンスに使用するビデオは1学年10分ほどに編集を行ったがどうであったか。
- ④ 1日に2場面（2学年分）を視聴する会と3場面（3学年分）を視聴する会を作ったが、場面数についてはどうであったか。
- ⑤ ビデオカンファレンスでの場面の抽出について、担当教諭から依頼のあった場面と筆者が抽出した場面を用いたが、選択はどうであったか。
- ⑥ どのような時にカンファレンスに参加できていると感じたか。
- ⑦ カンファレンスのグループ分けやグループの人数についてどうであったか。

3 結果と考察

3-1 撮影する曜日や時間帯について

表1から撮影を行う曜日については、実際に担当クラスを撮影される立場にある教諭が「月曜や金曜は週明け・週終わりということで、子どもたちの気持ちが落ち着かないため、週の半ばに撮影を行うことを望む」「水曜・木曜は子どもたちが遊び込んでいる姿が多く見られるので、遊びの盛りあがっている水曜・木曜で良かった」等と回答し、子どもの遊びの盛り上がりが見られる曜日に撮影を望んでいることがうかがえた。どの曜日でも良いと答えた2名に関しては、実際に撮影される立場ではなく、カンファレンスのみに参加する、クラスを担当していない教諭であった。2名からは「目的により、曜日や時間を変えてもいいのではないか」「どの曜日の姿も子どもの姿であるため、撮影して検討してみたい」という思いが聞かれた。このことから、実際にクラスを担当し、保育場면을撮影される立場にある教諭とそうでない教諭の間には違いが見られることが明らかとなった。また、この違いから実際に保育場면을撮影される立場にある教諭は、落ち着いている日の子どもたちの遊び込んでいる姿を撮影し、事例検討を行いた

いと考えているということがうかがえた。「どちらでも大丈夫」「特に何とも思わない」と答えた、その他の2名に関しては直接ヒアリングを行うことができず、質問の意図がうまく伝わっていなかったと捉えられるため、今回は結果には含めない。

表1 撮影する曜日について

撮影曜日	水、木曜日が良い	・月曜は週明けで子どもたちが本調子ではないことや、金曜は週末で疲れが溜まっていると思われるので、水曜か木曜で良かった。 ・週の始まりより、週の半ばの方が落ち着いているので良い。 ・週明けは落ちついて遊ぶことが難しいので、水・木曜の遊びが盛り上がっている時がベストだと思う。（6名）
	どの曜日でも良い	・水曜、木曜は子どもが落ち着いているという点ではいいと思うが、様々な子どもの様子を見るという点では色々な曜日で行うことで子どもの変化が見られるのではないと思う。 ・水曜・木曜が行事の翌日であると子どもは落ち着かないので、そのような場合は別の曜日にしてもいいのではないと思う。（2名） ・特に何とも思わないが、ビデオの日と構えはした。 ・特になし。どこでも大丈夫である。（2名）

3-2 撮影する時間帯について

表2から撮影時間帯と撮影時間については10：00～12：00という時間とは少し前後するものの、どの教諭も子どもの遊んでいる姿を撮影し、検討するために、午前中の2時間の撮影を希望しているということが見えてきた。また、「1クラス1時間続けての撮影を行うことでより子どもの様子が見えるのではないか」という意見からは、2時間の内の1時間を2クラスでわけて、1クラス1時間続けての撮影を希望していることや、続けて撮影をすることで遊びや行動の流れをより詳しく知りたいと考えていることがうかがえた。1名が「1日の撮影であると気持ちが疲れてしまう」と話していることや10名中9名が1日2時間を希望していることから、今回の調査では撮影時間は1～2時間が理想的であると考えられる。今後の案としては、基本は1クラス午前中の1時間続けて撮影するが、教諭からの依頼があれば、時間帯を変更し、希望時間帯に1時間撮影を行うことも検討していきたい。

表2 撮影する時間帯について

撮影する時間帯	今回の時間帯で良かった	・ 丸一日撮影されると気持ちが疲れてしまうので、1～2時間が良い。 ・ 最低2時間あることで子どもの様子がよくわかると思う。 ・ 今回は子どもの遊びの様子を見つめてみたかったので、この時間でちょうど良かった。 ・ 子どもの室内で遊んでいる場面が見られるこの時間帯が良い。2クラスで2時間ということで気持ちが少し楽であった。 ・ 1クラス1時間とし、1時間続けて途切れることなく撮影する方が子どもの遊びがより見えるのではないかと。(5名)
	その他の時間帯でも良かった	・ 子どもたち全員が遊んでいる11:00～11:45がいいのではないと思う。 ・ 2時間という長さは良いが、その日の目的によって時間帯は変化を持たせるといいのではないかと。 ・ 子どもが遊び込んでいる時間の9:30～11:30という時間帯でもいいかもしれない。(4名) ・ 特になし。大丈夫である。(1名)

3-3 ビデオの編集時間及び視聴場面について

表3、4より、今回は10分に編集された場面からでも、子どもの姿を捉えることができたと感じていることがうかがえる。「丁度よかった」という回答からも、現在はこの長さがカンファレンスを行うにあたって程よい長さだと考えられる。「同じ場面を何回も視聴しながら検討を行いたいと思うが、そうすると10分は長いように感じた」という意見は、1回目のカンファレンスで2度視聴を行い、全体のカンファレンス時間が設定時間の2時間を超えてしまったことを受けての回答であった。また、「カンファレンスが2時間で終了できるなら何場面でも構わない」や「3学年分視聴すると時間が長くなるので2学年分でもいいのではないかと」という回答からもカンファレンス全体としての長さは、2時間が負担感なく参加できる長さだと感じていることが確認された。また、「2学年分だと1つの事例をじっくり検討できるので良かった」という意見からは、カンファレンスに十分時間をかけたいと思っていることもうかがえた。今後の案としては、全体の時間を2時間とし、1回につき2場面を視聴し、各グループでのカンファレンスに30分の時間をとるという方法が考えられる。発達を捉えるためにという点からは、選択する2場面を3歳と4歳とすることや4歳と5歳とすることで、それぞれの発達の違いが見られるようにする工夫が必要となってくる。

表3 ビデオの編集時間について

ビデオの編集時間	短かった	・ もう少し観たい気がした。(1名)
	丁度良かった	・ 10分でもあそびの場面を捉えることができた。 ・ 10分以上あるとダラダラとしてしまいそうな気がするので、10分で丁度良かった。 ・ 補足説明等時間があることでそう感じたのかも知れないが、10分で場面の理解ができた。(8名)
	長かった	・ 同じ場面を何回も見ながら検討を行いたいと思うと10分という時間は長いように感じた。(1名)

表4 ビデオの視聴場面について

視聴場面数について	3場面が良い (3学年分)	・ 1回で3学年分視聴できるのは発達を知るためにも、良いと思った。(2名)
	2場面が良い (2学年分)	・ 3学年分視聴するとカンファレンスの時間が長くなるので2場面が良いのではないかと。 ・ 2学年分を順番に検討し、年間で全クラスの検討ができればいいのではないかと。 ・ 2学年分だと1つの事例をじっくり検討できるので良かった。(4名)
	その他	・ カンファレンスが2時間で終了できるのであれば何場面でも構わない。(1名) ・ 未回答 (3名)

3-4 ビデオの抽出場面について

表5の「撮影場面の希望はしたいが、自分では気づかない部分や場面（自分が見きれていない子どもたちの遊びの様子）はぜひ撮影者の気づきとして選んでほしい」「人によって考え方は違うので、ピックアップする場面が違っていいと思う。どの場面でも気づきがあると思うから、目的が合っていればどちらでも良い」という結果から、どの教諭も自らが見つめてみたいと思っている場面を抽出してほしいと感じてはいるが、撮影者の視点での気づきも新たな視点として捉えていきたいと思っていることがうかがえた。また、「担任の希望場面だけではなくてもいいが、どの場面をピックアップするかは事前に担任と相談できると良い」という結果からは、事前に担当教員とどの場面をピックアップするかについての話し合いを行うことの必要性が明らかとなっている。

表5 ビデオの抽出場面について

ビデオの抽出場面について	みが良い 希望場面の 担当教諭の	理由の記載なし（1名）
	良い 選んだ方が 撮影者が	（0名）
	その他	・ どちらもあってよいと思うが教諭と相談し、場面を決定できればより良いと思う。 ・ 自分では気づかない部分に気づけ、見直しができ、更に良くしていくことができると思う。また、客観的に見るができると思うから。 ・ 人によって考え方は違うので、ピックアップする場面が違っていいと思う。どの場面でも気づきがあると思うから、目的が合っていればどちらも良い。 ・ 担任だけでなく、他の人の視点から捉えてもらった方が面白いと思うから。 ・ 撮影場面の希望はしたいが、自分では気づかない部分や場面（自分が見きれない子どもたちの遊びの様子）はぜひ撮影者の気づきとして選んでほしい。 ・ 担任の希望場面だけではなくてもいいが、どの場面をピックアップするかは事前に担任と相談できるとよい。（9名）

3-5 どのような場面でカンファレンスに参加できていると感じたか

表6より、自分の思いを伝えることができた時にカンファレンスに参加できていると感じていることが明らかとなった。結果の中にある「安心して意見を出すことができたとき」「自分の話を受け入れてもらったと感じたとき」という回答からは、カンファレンスでは話しやすい雰囲気と安心感、様々な思いを受け入れる聞き手の姿勢が必要であることが確認できた。また、「悩みや迷いを話すことができたとき」という回答からは、カンファレンスでは自分の悩みや迷いも話したい・聞いてほしいと感じていることがうかがえた。

表6 どのような場面でカンファレンスに参加できていると感じたか

カンファレンスに参加していると感じられた場面	・ 自分の悩んでいることや迷っていることを話すことができたとき ・ 話しやすいと感じたとき ・ 自分の話を受け入れてもらえたと感じたとき ・ 些細なことでも話を聞いてもらえたとき ・ 自分の思いを聞いてうなずいてもらえたとき ・ 安心して意見を出すことができたとき ・ いろいろな視点や考えを聞き、意見交換ができたとき
------------------------	---

3-6 カンファレンスのグループ編成について

表7より、保育経験が15年以上の教諭からは、グループでカンファレンスを行うことを通して、いろいろな立場や視点からの意見を聞きたいという意見が多かったのに対し、保育経験が3年未満の教諭からは、年齢が近い方が話しやすいという意見も出された。全体的には、経験年数や担当年齢で分類するよりも、その都度メンバーを変えることを希望していることが示された。また、明らかとなったのは、保育経験に関係なく、どの年齢の教諭も自分の悩みや迷いを話したいという思いを持ってカンファレンスに臨んでいるということである。その思いを引き出すためにも、話しやすい3～4名の少人数グループでカンファレンスを行うことが必要であることがヒアリング調査より確認された。表6にもつながるが、安心して自分の悩みや思いを出すことができるようなカンファレンスを望んでいることがうかがえる。



表7 カンファレンスのグループ編成について

グループ編成について	年 経 数 験 別	・ 2～3人で年齢も近いほうが話しやすい。
	担 3, 当 4, 含 5 む 歳の	・ いろいろな立場と視点で意見交換ができると思う。
	その他	・ そのときそのときで色々な組み合わせがあってもよいが、沢山の意見が聞けるように5人ほどが良い。 ・ どちらとも言えない。毎回同じメンバーでなくてもよいが、少人数の方が悩みや迷いを話しやすいのではないかと考えた。 ・ グループ分けはどのようなメンバーでもいいが、悩みや迷いを話しやすいという点では、3人が丁度いいと思う。

4 本研究から見えてきた課題

本研究を通して、先行研究が示すように、ビデオカンファレンスはどの園においても保育者の意識（知りたいという思いや教えてほしいという意識）を高めるという利点があることが読みとることをできた。しかし、ビデオカンファレンスの方法については、「子どもの遊んでいる姿を撮影してほしい」「担当教諭の見逃している子どもの遊びの場面を撮影してほしい」「子どもが遊び込んでいる午前中2時間を撮影してほしい」という意見が多いことから、A幼稚園での現在のビデオカンファレンスでは、保育のすべての場面を撮影して検討するのではなく、保育の一部を選択して検討していきたいと考えていることがうかがえた。また、教諭が子どもと関わっている姿ではなく、子どもの遊んでいる場面をビデオに撮影し、検討したいと考えていることも明らかになった。撮影する場面や撮影対象については中坪ら（2012）⁽⁷⁾が示すようにその園その園の状況によって変化することが再確認できたと言える。このことを受け、今後は担当教諭と密に話し合いを持ち、撮影場面や撮影時間、検討場面を選択していくことが必要であろう。また、今後はピックアップした場面を担当教諭と事前に話し合い、レジュメを作成し、カンファレンスを行なっていきたい。

ヒアリング調査を通して、カンファレンスに参加しているという実感が持てるのは、どんな些細なことでも、思いを口に出して発言できた時であるということが明らかになった。また、原口（2016）が「他者評価への過敏性が高い保育者にとって、温かいまなざしや声掛けが今後の保育の大きな支えとなる」と述べている⁽⁸⁾ことから、今後カンファレンスを進めていく中で、安心して発言できるような環境や人数の設定が大切であることも確認できたといえるであろう。実際にA幼稚園ではカンファレンス後に少人数が集まり、互いの思いや悩みを伝え合うという姿が見られたことから、今後は座談会のような気楽に話し合え、安心して参加できるようなカンファレンスの環境設定（物的環境としては、部屋の広さや椅子や机等の環境）（人的環境としては、あたたかい雰囲気や安心できる空間）とはどのような環境であるのかを探っていくことが必要であろう。今後は人的・物的環境についても探りながら、よりよいビデオカンファレンスの在り方を明らかにしていきたい。

謝辞

本研究にご協力をいただきました、A幼稚園の皆様方に深く感謝を申し上げます。

引用文献

- (1) 厚生労働省（2008）保育所保育指針
- (2) 岸井慶子（2013）見えてくる子どもの世界 ビデオ記録を通して保育の魅力を探る p92-93
- (3) 工藤ゆかり（2015）質の高い幼児期の学校教育の実践に向けて—保育カンファレンスを通して—p1黒澤祐介・服部敬子（2016）若手保育者が育つ保育カンファレンス 悩みとねがいに寄り添う園内研修p60-61
- (4) 黒澤祐介・服部敬子（2016）若手保育者が育つ保育カンファレンス 悩みとねがいに寄り添う園内研修p60-61
- (5) (2)前掲
- (6) 中坪史典・秋田喜代美・増田時枝・箕浦潤子・安見克夫（2012）保育カンファレンスにおける談話スタイルとその規定要因 p38
- (7) 同上
- (8) 原口喜充（2016）日々の保育における担任保育者の保育体験—保育者の主観的体験に着目して—保育学研究第54巻1号p51

参考文献

- 那須信樹・矢藤誠慈郎・野中千都・瀧川光治・平山隆浩・北野幸子（2016）手がるに園内研修メイキング みんなでつくる保育の力 わかば社
- 秋田喜代美・松山益代（2011）参加型園内研修のすすめ—学び合いの「場づくり」—株式会社ぎょうせい
- 利根川智子・和田明人・音山若穂・上村裕樹（2014.1.10）継続的カンファレンスで対話を重ねることによる保育者の意識の変化 会津大学短期大学部研究紀要 第71号
- 木全晃子（2008）実践者による保育カンファレンスの再考—保育カンファレンスの位置づけと共に深まる実践者の省察—人間文化創成科学論叢 第11巻
- 上村晶（2010）実習事前指導における模擬保育ビデオを活用したカンファレンスの実際と効果 高田短期大学紀要第28号